

## 2021 北海道レフェリーアカデミー 第1回 事業報告書

報告者：山口麗弥（札幌）

【日 時】令和3年4月10日（土）・4月11日（日）

【場 所】とわの森三愛高等学校、篠路コミュニティセンター、SSAP

【参加者】 審判員：一瀬哲平、岡聖人、濱岡優太、山口麗弥

インストラクター：古曾部統太郎氏、今川一輔氏、伊藤真也氏、平石暁史氏、岡田渉氏

オブザーバー：山崎裕彦氏、堀悠雅氏、田口平蔵氏

### 【研修内容】

#### ○4月10日

11:00 集合 @とわの森三愛高校

12:00 試合実践① TM とわの森三愛高校-札幌丘珠高校 30分×3

1本目 R:山口 2本目 R:岡 3本目 R:濱岡

14:00 試合実践② TM とわの森三愛高校-札幌光星高校 30分×4

1本目 R:一瀬 A1:岡

#### 〈自己分析〉

一つ目のプレーの監視はできている場面が多いが、プレーの予測ができていないため二つ目三つ目のプレーを監視する確かなポジションが取れなかった。22分のシーンでは、体を反転させながらプレーを監視したため正しい判定をすることができなかった。その前にバックステップで争点から回避するなどできた。動き方には大きな反省が残った。

#### 〈INS分析〉

フィジカル的要素は魅力的に感じる。シンプルな展開にはスムーズな動きができています。展開に巻き込まれるなどは、そのフェーズに要因があるのではなく、その前にいかに準備しているかで回避または更にスムーズ動くことできる。

2本目 R:岡 A1:一瀬

#### 〈自己分析〉

試合開始直後に膝付近に違和感を覚え、思うように走ることができず良いポジショニングで全てを監視できたとは言い難い試合であった。また、フィールド中央付近で選手に巻き込まれてしまい、ボールに接触しドロップボールで再開する場面があった。結果としてプレーの邪魔をしてしまう結果になったため、沢山首を振っていかにして様々な情報を頭に入れておくのかという点を意識したい。また、自身のコンディションを整えることも審判員としてやらなければならないことなので、しっかりと準備したい。



### 〈INS 分析〉

首を振って情報を入れようとする姿勢はよかったが、どんな情報を得たいのか、整理すべき。ボールの出し手と受け手の認識をもっと高める、出し手に対して受け手となる選手が一人なのか数人なのなど、主審が入れるべき情報は数多くある。

### 3 本目 R : 濱岡 A1 : 山口

#### 〈自己分析〉

体力を落とさず走れたが、目標であった最善のポジショニングはあまり取れていなかった。何となく走り、ポジショニングを取るのではなくどこを見たくてそのポジションを取っているのか理由を持つべきだった。そのために、ボールの位置、選手の位置、受け手と出し手の関係性、ボールホルダーの意図などを把握して最善のポジションを取るべきだった。試合中にどこにポジションを取れば見たい範囲が、全体が見えるのか感覚ではなく、根拠を持つよう意識したい。

#### 〈INS 分析〉

ポジションを決めるための要素について整理しておく必要がある。ボールの位置、選手の位置、プレーの意図、パスの出し手と受け手の関係など、根拠となる要素を瞬時に判断し、どこにポジションをとるべきか、ボールとの距離、角度、対角線式審判法を考慮して改善してほしい。



### 4 本目 R : 山口 A1 : 濱岡

#### 〈自己分析〉

アクシデントで顔を打った選手がいたときに、何度か声をかけて怪我について気を配る姿勢は見せたが、怪我をした選手にランニングで近づいていくなど周りから見たときにどう思われるかを考えていなかった。たとえ、大事には至らないであろう軽い怪我であったとしてもスプリントで即座に怪我をした選手に駆け寄る姿勢をとることで、選手やベンチ役員からの信頼も増すので、今後実践していきたい。

#### 〈INS 分析〉

状況に応じて適切な対応が求められるので、その対応とは何かを常に考えて行動したい。(例 言葉遣い、駆け寄る姿勢やスピード) 何事にも『気付き』を持ち、対応すべき時に対応し、行動すべき時に迅速に行動する姿勢が求められる。

17 : 00 解散

19 : 00 HKFA 強化指定審判員 T2 グループ研修 受講

20 : 00 1 日目日程終了

○4月11日

09:50 集合 @篠路コミュニティセンター

10:00 講義「理想の審判員」 担当：古曾部 INS

各々が思う「理想の審判員」のイメージをイラストで表現した。3期アカデミーでは、「感謝」「謙虚」「覚悟」をテーマとして掲げているが、その中でも理想の審判員像を体現するために判定・フィジカル・強さが必要であることを再確認した。



10:50 フィジカル講義「Physical checkの意義について」 担当：岡田 INS

近年では主審・副審の移動スピード、チェンジスピード、動作パターンに関する必要性がより高まっている。高いフィジカル能力が主審・副審の判定における正確性を高めるため、フィジカルチェックはそのような状況において、評価やモチベーションアップなどの材料としてだけでなく、審判員のフィジカルを現代サッカーへ対応させるという役割を担っている。そして、3期アカデミーフィジカルトレーニングでは「超える」を合言葉として、トレーニングに励んでいくことを確認した。

11:30 昼食

12:30 ディスカッション 全体研修に向けた自己紹介の打ち合わせ 担当：古曾部 INS

4月17日に Web 上で行われるレフェリーアカデミー全体研修の際に北海道の自己紹介をすることになっているため、その自己紹介に向けた打ち合わせを行った。

13:30 試合振り返り

14:30 移動 @SSAP

15:00 Physical check YOYOtest、speed test

スプリントテストとYo-Yoテストを用いてフィジカルチェックを行った。各々、客観的な数値をもとに自らの立ち位置を確認した。

スプリントテスト4人平均：1.77秒

Yo-Yoテスト4人平均：49本

17:10 2日目日程終了・解散

